

## 第2編 基本構想

---

## 第2編 基本構想 用語解説

ページ	用語	解説
29	プロセス	英語の「process」を語源とし、一般的に「物事の手順や手段、方法」という意味で用いられる。
31	定住人口	その地域に住んでいる人々のことで、居住者・居住人口とも言われる。
31	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことをいう。
31	交流人口	その地域を訪れる人々のこと。通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャーなどを目的として訪れる人々のことをいう。
33,34	ネットワーク	「網（net）」という意味の英単語を語源とし、人間関係の広がりや、組織や集団、拠点などの間の繋がりがりや体系、交通機関や道路等の地理的な構造などを総称したものである。
33	レクリエーション	仕事・勉強などの肉体的・精神的疲労を癒やし、元気を回復するために休養をとったり娯楽を行ったりすること、また、その休養や娯楽自体のことをいう。
36	イメージアップ	世間の受けとり方や全体的評価が良くなるようにすること。また、良くなることをいう。
37	ビジョン	将来のある時点でどのような発展を遂げていたか、どのように成長していたか、などの構想や未来像、また、それらを文章などで描いたものである。
38	ライフステージ	成長・成熟の度合いに応じた人生の移り変わりをいう。一般的には、乳児期、幼児期、児童期、思春期、成人期、壮年期、老年期がライフステージとしてある。

## 第1章 まちづくりの基本理念

『まちづくり』とは、道路や公園、建物の整備に関する内容だけでなく、社会、経済、文化、環境など、生活の根幹を構成するあらゆる要素をも含めた暮らしを創っていく過程です。これからの新しい時代に向けて、まちづくりのプロセス\*を支えるための基本的な考えとなる基本理念を次のように定めます。

### 1 誰もが幸せを実感できる暮らし豊かなまちづくり

安全に安心して暮らせる安定した生活の基盤を整え、水と緑、豊かな自然の恵みの中でいつまでも住み続けられる土台を構築し、まちの主役である住民が、働き、生活し、楽しみ、ふれあい、交流し、学ぶことができる豊かで幸せが実感できる社会が続くまちづくりを進めます。

### 2 みんなで進める協創のまちづくり

本町のまちづくりに関わる住民、団体、企業、教育機関、地域、行政等といった多様な主体が連携し、相互に助け合いながら協力しあう「協働」をさらに進め、新たなまちの魅力や地域の価値を高め、まちの未来を一緒に創り上げていく協創のまちづくりを進めます。

### 3 未来に向かって夢ふくらむまちづくり

住む人。働く人。訪れる人。これから訪れるかもしれない人。いろいろな人の想いや夢を共有し、みんなの想いや夢として育て、まち全体で実現していく力に変えて、東京から50km圏内にある首都近郊の中で、未来に向かってきらりと輝き続けるまちづくりを進めます。

## 第2章 まちづくりの目標

### 1. 将来像

このまちの子供たちが思い描いた将来の五霞町をイメージする言葉は“快適な”，“居心地のよい”でした。

その子供たちがこのまちの担い手となっている20年後を見据えたまちの“将来像”を示します。

## キラリ★五霞町 ～快適で居心地のよいまち～

五霞町が誕生して130年、とても小さいですが、ハクレンジャンプが観察できる川や季節の花が咲く緑豊かな自然があり、多くの人々が働く企業の工場が立地し、首都圏中央連絡自動車道のインターチェンジや美味しい地場野菜が自慢の道の駅がある、人やモノが元気に交流するまちです。

そんなたくさんの魅力が詰まった“キラリ”と光る五霞町。

そこで暮らす住民のみならず、町外から仕事や道の駅を訪れる人も、このまちに関わるすべての人々がここで快適な時間を過ごし、居心地のよい素敵なまちだと感じてもらえる五霞町を目指します。



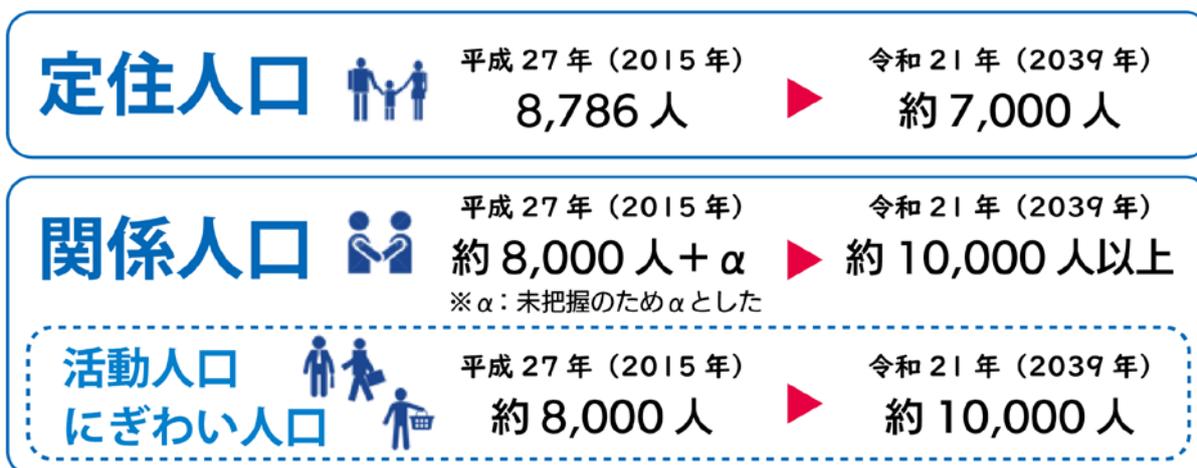
## 2. 将来指標

自治体の規模を表す数字は、そこに居住する人口だけではありません。まちを訪問する人・まちで働く人など一日の中で営まれる多種多様な活動も含め、様々な人が居てこそまちは成り立っています。また、まちを想う人がどれだけ多いか、目に見える数だけでなく、目に見えない価値も含めて、それらの総和を拡大していくことが将来の五霞町の発展につながると考えます。そのため、五霞町の将来の人口については、「定住人口\*」だけでなく、五霞町に関わる人々を表す「関係人口\*」も含めて位置づけるとともに、五霞町における暮らしの幸福度を表す「ごか幸福指標（GKS）」（Goka Koufuku Shihyo）を位置づけ、将来指標に定めます。

### (1) 将来人口

国勢調査における本町の総人口は平成27年（2015年）の8,786人となっており、減少基調が固定化し、その傾向がさらに加速している現状にあります。日本全体が本格的な人口減少社会に突入しており、本町においても引き続き人口減少が続く見込みで、令和21年（2039年）には約5,900人にまで減少すると予測されています。そのため、人口減少に歯止めをかけるための施策を展開し、転入の増加、転出の抑制、出生率の向上を図り、人口7,000人を維持することを目指します。

また、本計画においては、将来的な目標人口を定める「定住人口\*」のほか、町外から就労者、道の駅等に訪れる人々も本町に関わる人口と捉え「関係人口\*」として位置づけます。そして、これらの相乗効果により、まちの活性化を幅広く推進していくものとします。



#### 【解説】

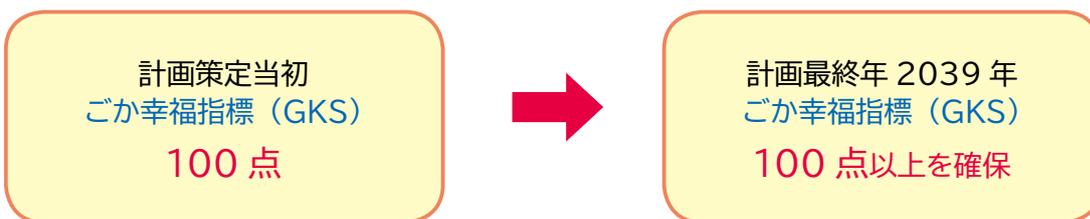
- ・ **活動人口**：五霞町に外から働きに来る就業者（1日当たり）。国勢調査による従業地による就業者数（県内他市町村に常住＋他県に常住）から算出。平成27年（2015年）10月1日現在で約6,000人程度であり、将来はその拡大を目指す。
- ・ **にぎわい人口**：（道の駅とか等）五霞町に一時的に立ち寄る滞在者（1日当たり）。道の駅とかレジ通過者（町調べ）から算出。平成27年（2015年）実績で約2,000人/日程度であり、将来はその拡大を目指す。
- ・ **関係人口\***：移住した「定住人口\*」でもなく、観光に来た「交流人口\*」でもない、地域と多様に関わる人々。地域づくりの担い手となる地域外の人材。町外からの就業者の活動人口や道の駅等に訪れるにぎわい人口に加え、五霞町外に居住する地域づくりの力になる存在の人々も関係人口に含まれる。現在値は未把握であるが、将来は増大させることを目指す。

(2) ごか幸福指標 (GKS)

全国的に、人口減少、少子高齢化が進行している現状から、これまでの右肩上がりの「成長するまち」から、今後は「持続可能なまち」を目指してまちづくりを進めていくことが重要です。

人の価値観が、「モノ」の豊かさから「心」の豊かさへとシフトしてきていることから、これから20年先の将来を目指す新たな第6次五霞町総合計画において、本町における生活の質(=幸福感)を指標化し、「ごか幸福指標 (GKS)」として設定します。

■ごか幸福指標の目標



ごか幸福指標 (GKS) = 主観的指標 + 客観的指標 + 五霞町で暮らす幸福感

- 主観的指標 ⇒ まちの施策の各分野における住民の満足度
- 客観的指標 ⇒ まちの施策の各分野の取組により表れる各種統計調査の数値
- 五霞町で暮らす幸福感 ⇒ 「五霞町で暮らしていて幸せを感じるか」(住民意向調査)の満足度

	まちづくりの基本理念を踏まえた分野で指標を設定	住民の満足度	各種統計調査
基本目標 1 まちのかたち -グラウンドデザイナー-	安全・安心なまちのかたち	5点	5点
	みんなでつくるまちのかたち	5点	5点
	活力あふれるまちのかたち	5点	5点
基本目標 2 ひとのくらし -ライフデザイナー-	安心に暮らせるひとのくらし	5点	5点
	助け合うひとのくらし	5点	5点
	笑顔があふれるひとのくらし	5点	5点
基本目標 3 まちのしくみづくり -ソーシャルデザイナー-	誰もが暮らしやすいまちづくりのしくみ	5点	5点
	協働・協創のまちづくりのしくみ	5点	5点
	夢ふくらむまちづくりのしくみ	5点	5点
五霞町で暮らしていて幸せを感じるか		10点	
(計画策定当初) 合計		100点	



(計画最終年2039年) 合計	100点以上
-----------------	--------

## 第3章 まちづくりのデザイン

3つのデザインにより“未来のかたち”を示します。

### 1. グラウンドデザイン（土地利用構想）

#### （1）土地利用の基本的な考え方（エリア）

本町は、四方を水域（河川）に囲まれた緑豊かな貴重な自然環境を背景に、首都圏中央連絡自動車道や新4号国道を軸とした6つの工業団地と原宿台等の整備された住宅地を配置するなど、それぞれの特徴を生かしながら、自然と都市のバランスがとれた魅力ある都市を形成してきました。

進行する人口減少・少子高齢化、経済のサービス化・ソフト化が進む産業構造の変化は、土地利用に大きな変化をもたらすものと予想されます。時代の流れとともに五霞町が発展する過程の中で形づくられてきた、多様な都市空間のつながりを保ちつつ、豊かな自然と都市がいつまでも調和するまちづくりを基本としながら持続性の高い土地利用を推進します。

#### （2）土地利用の方向性（核・拠点・連携軸・ネットワーク\*）

##### ①役割に応じた核や拠点の形成

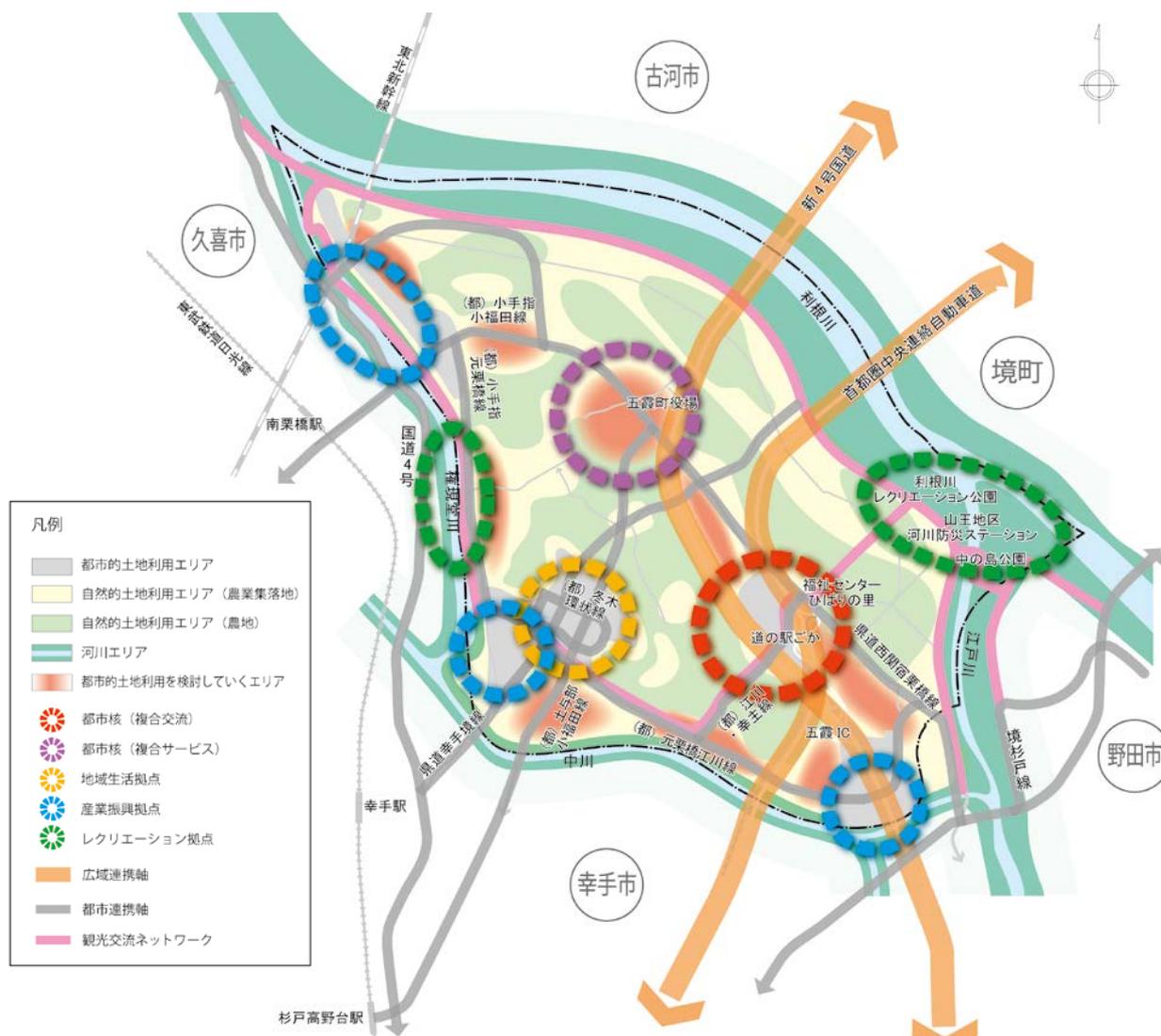
本町の中心的なにぎわいを形成し広域的な交流機能を持つ「核」、地域産業を下支えし、住民の生活の質を高め、観光・交流としての役割も担う「拠点」、を位置づけ、五霞らしい特徴のある土地利用を進めます。

核	本町の玄関口として、様々な都市機能の高度化を図る「都市核（複合交流）」や、行政・文化の複合拠点機能の強化を推進し町内外の人々が交流する中心となる「都市核（複合サービス）」の機能強化を図り、まちの中心として求心力を高める核を形成します。
拠点	本町の活力を支える産業活動の場、住民の就業の場として充実を図る「産業振興拠点」、身近な生活圏域の中で利便性と暮らしやすさを調和させた「地域生活拠点」、町内外から訪れる人々が憩い、交流を育む「レクリエーション*拠点」を形成し、住民生活や産業・経済活動等を支えながら、持続性の高い土地利用を推進します。

②都市構造を支える「連携軸・ネットワーク\*」の配置

五霞らしさを高める核・拠点の機能強化に向けて、人やモノの流れを町外から吸引し、そのエネルギーが町内全域に行き渡るよう、町外・町内の幹線道路の連携軸の充実に努めます。さらに、水に囲まれた自然豊かな環境に住民のみならず町外の人にも親しめるよう、河川緑地や田園環境を散策路で結び、自然に親しむネットワーク\*を構築します。

<p><b>広域連携軸</b> <b>都市連携軸</b></p>	<p>広域連携軸として首都圏中央連絡自動車道,新4号国道を位置づけます。また,都市連携軸として国道4号,県道西関宿栗橋線,県道幸手境線及び町内都市計画道路を位置づけます。これらは,本町と他の地域を結びながら,本町の産業活動や住民生活の利便性向上に期待できる道路として沿道も含め整備促進を図りつつ,効率的かつ経済的な交通流動を確保する連携軸づくりを進めます。</p>
<p><b>観光交流</b> <b>ネットワーク*</b></p>	<p>利根川・江戸川・権現堂川等の河川緑地や田園環境を散策路で結び,住民のみならず,様々な人々が自然に親しむネットワーク*を形成します。</p>



## 2. ライフデザイン (ごかライフ)

### (1) ごかライフの基本的な考え方

住民一人一人を大切にした生活のあり方や人の暮らしを形づくるため、五霞町で生活するすべての人々が豊かに暮らしていくために様々な主体ごとの“ごかライフ”をデザインします。

### (2) ごかライフの方向性

行政、住民、企業等、まちに関わる人々が連携し、助け合いながらまちづくり活動に取り組み、「居心地のよいまち」を目指します。

#### ①行政の役割・方向性

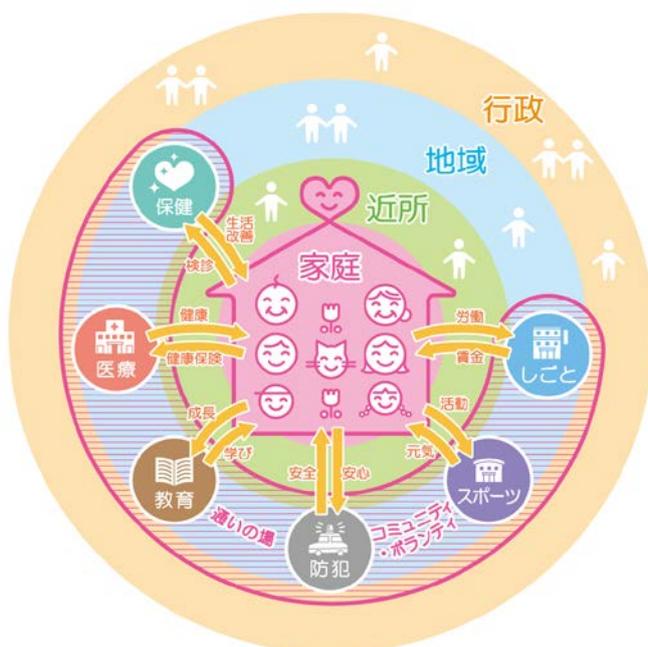
- 行政は住民が安全・安心に暮らせる体制を強化し、今後起こりうる様々な問題や課題に向けて住民と手を取り合い、一緒に解決していきます。
- 高齢者から子供まですべての住民が住みやすいまちを目指し、医療制度や保健福祉などの充実を図り、支え見守ります。
- 教育施設等の学びの場を整え、住民がいつでも自ら学ぶことができる環境を提供していきます。
- 小さなまちだからこそ細かいところまで目が届く、子育てがしやすい環境づくりを目指します。
- 町内企業と連携し雇用の場を整え、町外の人も住民も働きやすい職場があるまちを目指します。

#### ②住民の役割・近所や地域との関係性

- 住民同士が助け合うことで、高齢者から子供までみんなの笑顔と愛情があふれる、安全・安心で居心地のよいまちを目指します。
- 近所や地域の人と交流を図るコミュニティの場づくりに努め、お互いに見守り、見守られる関係を促進します。
- 地域の歴史文化を継承し、まちを誇りに思う心の醸成を図ります。

#### ③家庭の幸せ

- 医療や福祉が充実することにより家族みんなが健康でいきいきと暮らしている家庭を目指します。
- 幼児教育や義務教育はもちろんのこと、家庭の教育力の向上も目指します。
- 隣近所との助け合いで安全・安心な暮らしを確保します



### 3. ソーシャルデザイン（協働の仕組み）

#### (1) 協働の仕組みの基本的な考え方

住民・事業者・行政で共有できる地域社会のあり方や“協働の仕組み”をデザインし、協働によるまちづくりを推進します。

#### (2) 協働の仕組みの方向性

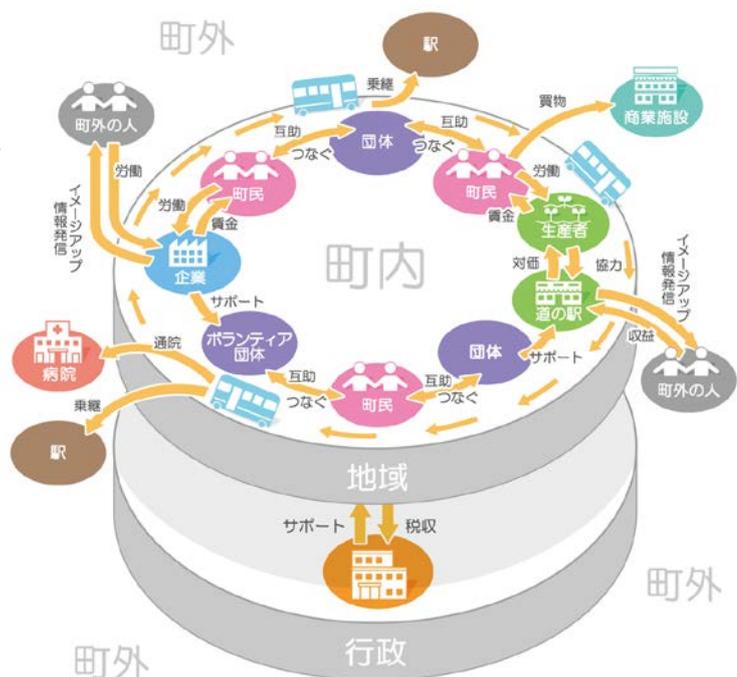
まちを元気にするために、行政・事業者・住民の情報の伝達力を強化し、連携する仕組みをつくり、みんなの力を合わせた「協働のまちづくり」を目指します。

##### ①まちの中での協働の仕組み

- 行政は、住民が求める情報を発信し、町政への関心を深めるとともに、住民の活動を支援します。
- 行政は、住民がまちづくりに参加する機会の充実を図り、住民が発するニーズを受け止め、協働のまちづくりを推進します。
- 住民同士が助け合い、支え合い、地域に関わっていくことを促進します。
- 道の駅において、町内の生産者から優良な農産物を集荷し販売することで、生産者に収益をもたらすと同時に、農業の活性化を図ります。
- 公共交通が町中を走り、地域間をつなぎ、住民と場所（施設）をつなぎ、そして、住民同士のつながりを深め、まちに関わる誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します。

##### ②まちの外との協働の仕組み

- まちの外へと五霞町の魅力が広く認知されるよう、行政や事業者は様々な情報を発信していきます。
- 道の駅は、町外から買い物客を集め、まちに活気を与えるとともに、まちに関わる町外の人々にまちの魅力を発信します。
- 町内立地企業は、働く場を提供することで町内外から人を集め、良品を製造出荷し、まちのイメージアップ\*に貢献します。

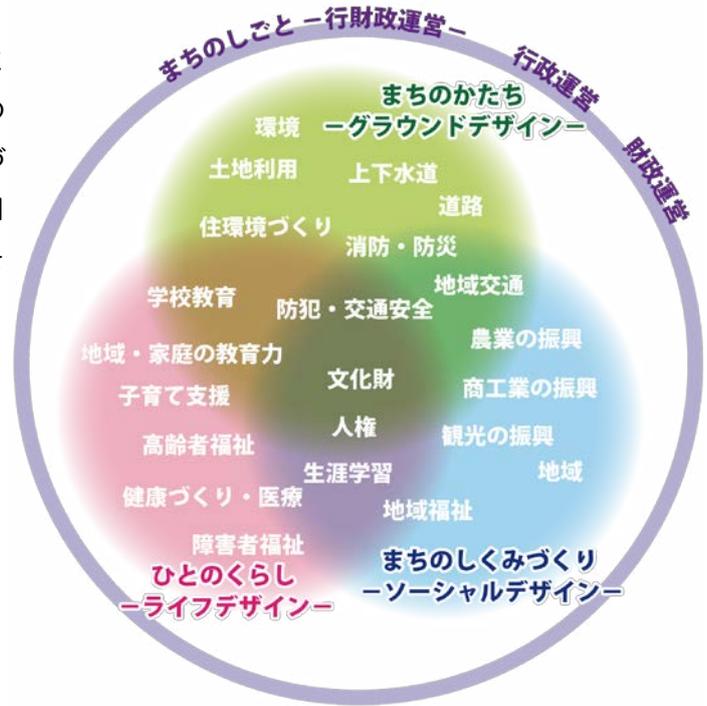


## 第4章 施策の大綱

3つのビジョン\*に基づく“未来の方向性”を示します。

第6次の計画では、これまでの6つの分野の基本目標で施策を整理していたものを、分野の枠にとられないことなく、各課が連携してまちの課題に取り組むために、大きく3つのデザイン+1分野（行財政運営）で施策を構成します。

第3章のまちづくりのデザインに基づき、「まちのかたち—グラウンドデザイン—」、「ひとの暮らし—ライフデザイン—」、「まちのしくみづくり—ソーシャルデザイン—」の3つの基本目標と「まちのしごと—行財政運営—」で施策を整理します。



### 1. まちのかたち —グラウンドデザイン—

グラウンドデザインは、まちに関わる人々の活動や生活を支える基盤の整備を目指します。施策は、土地利用や施設の維持管理といった都市基盤・生活基盤の視点で整理します。

1 まちの土台をつくる
(1) 都市と自然が調和した土地利用の推進
(2) 町内外との交流を促進する交通体系づくり
2 まちの機能を高める
(1) 環境に配慮したまちづくりの推進
(2) 上下水道の適正な維持・管理
(3) 安心して暮らせる基盤の充実
3 まちの環境を良くする
(1) 安心して暮らせる体制の強化
(2) 住みよい住環境づくり

## 2.ひとの暮らし –ライフデザイン–

ライフデザインは、住民一人一人が豊かに暮らしていくまちを目指します。

施策は、ライフステージ\*ごとの住民個人の生活への支援や各種行政サービスの視点で整理します。

1 ひとを育てる（五霞町教育振興基本計画）
（1）時代に対応した学校教育の推進
（2）学校教育推進のための基盤づくり
（3）生涯学習の充実と豊かな歴史文化の継承
2 ひとを支え見守る
（1）子育て世代の暮らしの充実
（2）高齢者の暮らしの充実
（3）障害者の豊かなくらしの支援
（4）住民の健康なくらし

## 3.まちのしくみづくり –ソーシャルデザイン–

ソーシャルデザインは、行政・事業者・住民が協働したまちづくりを目指します。

施策は、産業振興、地域コミュニティ、各種団体活動の支援の視点で整理します。

1 まちのわ（輪・和）
（1）誰もが暮らしやすいまちづくりの推進
（2）住民同士・行政と住民との協力関係の充実
2 まちの活力
（1）地域の内外で連携するまちづくり
（2）まちの農商工活性化

## 4.まちのしごと –行財政運営–

行財政運営は、住民の安全・安心を守り社会の安定を保ち、豊かなまちの運営を目指します。

施策は、行政が日々行う「しごと」をまとめて整理します。

1 行政運営
（1）社会の変化に対応した行政経営
（2）効果的な行政運営を行う人材育成と組織の最適化
（3）満足度の高い行政サービスの最適化と利便性向上
2 財政運営
（1）健全な財政運営
（2）公共施設等の計画的な管理と統合・廃止